



今週の出来事 1

新しいプロジェクトがはじまりました

昨日、新しいチーム探究がスタートしました。プロジェクト名は

「Funtastic Creators Project ～デジタル絵本をつくろう～」

SOLANのプリスクールの子どもたちに、オリジナルのデジタル絵本をつくってプレゼントしよう、というプロジェクトです。

第1回は、プロジェクト全体の流れを子どもたちと一緒に考えました。デジタルブックを完成させるために何が必要か、どんな順番で取り組んでいけばよいか。グループで相談しながら組み立てていく様子に、この半年の成長が表れていたと感じます。

前回のゲームフェスティバルでも同じように流れから考えましたが、今回は明らかに話し合いが速くなっていました。

来週からは、山本悦子さんの作品を読み深め、おもしろい物語づくりのポイントを探っていきます。

驚いたのは、本を渡したときのことです。休み時間になるとすぐ教室で読み始める子がいて、その日のうちに「先生、もう読み終わりました!」と報告に来る子もいました。物語を「つくる側」になると決まったとたん、読み方が変わる。これは、ただ読書をうながすだけでは起こらないことです。読書の秋、実りの秋となるよう進めていきます。



流れを話し合う姿



本を読む子どもたち

さつまいも掘り

生活科でさつまいも掘りをしました。さつまいもは、実際に掘ってみないことには、どれくらい育っているか分かりません。今回掘り起こしてみても、子どもたちと相談した結果、**さつまいもパーティー（さつまいもの調理）**を行うことになりました。

詳細は本日、お知らせしたとおりです。ぜひ保護者サポーターとしてご参加いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



さつまいもゲット

今週の出来事 2

ソーランリーダー

ソーラン節の練習では、リーダーバッジという取り組みを進めています。リーダーに認定された子が、バッジを身につけて練習に臨みます。

子どもたちに伝えたリーダーの条件は、次の3つです。

- ① 自分のパートをしっかり覚えて踊れること
- ② たくさん練習をがんばれること
- ③ 話の聞き方や待ち方で、みんなのお手本になれること

ここで大事にしているのが、③です。踊りが上手なだけではリーダーになれません。待っているときの姿勢まで含めてお手本になれるか。ソーラン節の練習を通して育てたいのは、踊りの技術だけではないからです。

1回目の練習から、さっそく認定された子が出ました。発表された瞬間、「やったー、涙が出そう」と言う子もいました。クォーター休みの間に、50回ほど練習を重ねてきた子もいます。

印象的だったのは、選ばれなかった子の姿です。「悔しいから、もう1回やらせてください」と、何度もチャレンジしています。

今、リーダーの数は少しずつ増えています。各クラスで、リーダーの子が苦手な子をサポートする場面も見られるようになりました。

この仕組みの目的は、上手な子を選び出すことではありません。目指す姿をはっきり示し、そこに向かう道筋を全員に開いておくことです。条件は3つとも、努力で届くものにしてあります。実際、一度選ばれなかった子が次に認定される姿も出てきました。

バッジをつけた子も、まだの子も、全員が前向きに取り組めるように支えていきます。本番までに、学年のほとんどの子がバッジをつけている——そんな姿を目指しています。

ご家庭でも、練習の話が出たときには、ぜひ前向きに励ましていただければ幸いです。



ハッピー 法被

先日、クラスごとに法被へ手形スタンプを押していきました。この一連の作業を、私たちは「ハッピー法被づくり」と呼んでいます。

押し終わると、色鮮やかな法被ができあがりしました。「僕の手形これだ!」「私のはこれ!」と、自分の手形を指さす声があちこちから聞こえてきます。

手形にしたのには、理由があります。全員の手形がそろって、はじめて一着の法被が完成する。

誰か一人が欠けても、あの鮮やかさは生まれません。踊りも同じです。みんなの手が集まった衣装を着て、みんなで踊る。そんな一日になればと思っています。

当日、これを身につけて踊る子どもたちの姿を、どうぞ楽しみにしてください。



